

第 10 回 生駒市環境審議会ごみ減量化専門部会 議事録

【日 時】平成 22 年 6 月 25 日(金)午前 10 時～11 時 30 分

【場 所】生駒市コミュニティセンター 201・202 会議室

【出席委員】森住部会長、中西委員、高木委員、大内委員、田村委員
谷川委員、小林委員

【事務局】奥谷生活環境部長、中谷環境事業課長、辻中環境管理課課長補佐
竹本管理係長、吉岡事業係長、(株)地域計画建築研究所 小泉、(株)地域計画建
築研究所 長沢

1 開会

開会宣言

資料確認

傍聴者確認 0 名

2 議事録への署名について

前回の議事録は高木委員、大内委員が署名

今回の議事録は藤堂委員、谷川委員が署名

3 案件

(1)ごみ収集ルートの変更について

・事務局より資料の説明

藤堂委員：開始時刻は何時ころになるのか。

事務局：午前 7 時から開始し、各地域での収集は 12 時までに終了する。

小林委員：2 コースの場合は時間がかかるように思われるが、2 コースとも 12 時までに収
集を終了するのか。

事務局：そうである。休日の翌日などで一部午後になる場合も考えられるが、原則として
午前中に収集を終了する。

大内委員：休日の翌日はごみ量が増えるからなのか。

事務局：その通り。収集車が早く満杯になり、リレーセンターへ降ろしに行く回数が増え
る。

小林委員：4 台増車が必要となっているが、市の負担になるのか。

事務局：そうである。

森住部会長：1 台当りの年間費用はいくらか。

事務局：燃料や作業員人件費も全て見込んだ金額で、およそ 3,600 万円である。

森住部会長：1 台で週何日稼働するのか。

事務局：週6日、稼働する。

森住部会長：日割りでの契約はできないのか。6日稼働しない場合もあるかも知れない。

事務局：検討したことがない。

森住部会長：これから検討していただきたい。

小林委員：廃プラスチック収集は週1回になっているのか。

事務局：そうである。

小林委員：収集場所はどうなるのか。

事務局：不燃物の排出場所と同じである。1,400箇所となる。

大内委員：廃プラスチック分別収集により可燃ごみは減る。可燃ごみが減る分も入れて計算した結果なのか。

事務局：そうである。可燃ごみが減ったとしても大きく減る訳ではなく、業者と話し合ったところ、収集時間が1時間も短縮するほどではない。現状と大きな差はないと言える。

森住部会長：費用は収集時間で決まる。

小林委員：重量が満杯になったら清掃センターへ帰るのか。

事務局：そうである。現実的には、過積載を避けるため満杯ぎりぎりまで積めない。

森住部会長：体積については、見かけ比重をいくらしして設計しているのか。

事務局：今はわからない。

森住部会長：調べてほしい。4t車の場合、水であればちょうど4m³となる。ごみの場合は嵩が大きい。見かけ比重の設定はパッカー車のメーカーによって違う。

アルパック：メーカーは公表したがない。

森住部会長：空容積は決まっているだろう。

アルパック：決まっている。

森住部会長：では、見かけ比重はこちらで計算するしかない。

事務局：9t車で5,200kg積めば清掃センターへ運搬する、といったルールになっている。

4t車だと2,200kg。9t車は積載量に対してさほど積めない現状である。3t車は2,800kgと多い。

アルパック：3t車も4t車も法律上は、車体も含めた総合重量の制限は8tである。4t車は車体が重いため、積める重量が少なくなる。

森住部会長：では、3t車が最も効率がよいのか。

アルパック：そう考えられる。

大内委員：収集曜日は月・木、火・金、水・土になるのか。

事務局：そうである。新規開発された住宅地の場合、効率的でないルートになっていることもあるが、そうした地域の収集ルートも見直していくため、より効率的になると見られる。また、市では午前7時にごみを出すよう訴えているが、各地域の収集時間帯はだいたい決まってくるため、直前に出す人も多い。そのため時間が早くなった時にごみ出しが完了しておらず、収集車が待機することもある。同一自治会で収

集曜日が異なるケースもある。これらを全て見直し、一から市民に啓発し直したい。
従って、地域によっては曜日の変更がある。

藤堂委員：自分が出す集積所についてはかなり正確に知っておられる。直前に出す人の理由は、カラス等に荒らされるため、直前に出すほうが荒らされる確率が低いというものである。収集車が来るのを見てから持っていく人もいる。

事務局：それは問題ではないが、自治会によってはこの時間より前には入らないようにと言うところがある。これは改善したい。プラスチック分別収集の説明会時に、これらも含めて周知徹底したい。

大内委員：各案のメリット・デメリットをまとめたい。資料の最後の行、廃プラスチックが午前収集の場合「可燃ごみの収集と異なる収集車が必要」と書かれている。何台か増車が必要であるということか。

事務局：そうである。

森住部会長：何台必要か。

事務局：3台程度、必要になると思われる。

森住部会長：3分割案の場合、別の車両が廃プラスチック用になるのか。

事務局：そうである。廃プラスチックが午後収集の場合、可燃ごみ収集に使った車両を洗浄し、廃プラスチックの収集に使用する。

藤堂委員：廃プラスチックを午後収集にすれば、新たな費用の支出はないということか。

事務局：そうである。

森住部会長：午前収集の理由は、カラスや猫に荒らされるのをできるだけ避けることにあ
る。廃プラスチックの場合、食品残さはほとんどないため、その心配はない。この
点が市民に理解されるかどうか。3台増車すれば1億円近くかかる。1億円かけて
までやるだけの理由はあるのか、と市民に問えばよい。

小林委員：現在より1億円余計にかかるということか。

事務局：そうである。

藤堂委員：当自治会のモデル事業では午後収集の場合もあるが、特に問題は起きていない。
きれいにいせれば問題ない。

森住部会長：心配される人に対し、具体的な説明ができるよう準備する必要がある。写真
も用意したほうがよい。

事務局：廃プラスチック分別収集の説明会開催の際、きれいなものを出していただくよう
周知に力を入れたい。具体的にこの程度のもの、とわかるよう写真や現物で説明で
きるようにしたい。収集業者には、廃プラスチックもできるだけ午前に収集できる
体制を組めないか、投げかけているところである。

森住部会長：遅くとも何時までには終了する、ということを確認にし、その時間を市民に
言ったほうがよい。業者と詰めてほしい。

藤堂委員：可燃ごみにはネットをかけているところが多いが、廃プラスチックについては
当自治会ではネットが必要という声はない。初期はカラスに荒らされることもあつ

たが、現在は荒らされる原因になる物が入っていないため、荒らされることはない。
もし、廃プラスチック用にネットがほしいという声があれば対応できるのか。

事務局：考えていきたい。

小林委員：可燃ごみと廃プラスチックでは収集日が変わるのか。同じ日に出すことはないのか。

事務局：不燃ごみ集積所にびん・缶・ペットボトルを排出しているが、それと重ならないようにしたい。可燃ごみ収集日と重なる地区も出てくる可能性はある。

藤堂委員：自治会によっては可燃ごみと不燃ごみとで、場所や当番を分けており、可燃ごみのネットを廃プラスチック用に使えないケースもあると思われる。

森住部会長：各地域への説明会に入る前に、その地域の収集曜日が確定している必要がある。

事務局：そのようにしたい。

小林委員：土曜日の収集を嫌がる地区もある。

森住部会長：それはご理解いただくほか仕方がない。

小林委員：現状の費用で廃プラスチックも収集するためには土曜日も収集するしか方法がないことを説明する必要がある。

森住部会長：土曜日を嫌がる理由は何か。

事務局：新興住宅地で若い世代が多いところなどで、土曜日は休日のため朝早く起きるのは嫌だという声がある。

谷川委員：朝5時半からごみを出す人もいる。土曜日に当番をするのは嫌という人もいる。

小林委員：前の夜11時くらいから出す人もいるが、夜に出すのはダメなのではないか。

藤堂委員：地域によって違う。仕事の都合で朝早く出勤する人は5時台に出さざるを得ない。

小林委員：このように出しているという事例をある程度把握し、説明会の時に伝えたらどうか。当番のため土曜日の朝5時半にネットを出さなくてはならない、というのは確かにたいへんかも知れない。

谷川委員：落ち葉をごみ袋5杯分出される時に当番に当たると大変である。

森住部会長：これらの様々な事情については、こちらでも対策を考えるが、あなた方も考えてほしいと書いておく必要がある。

藤堂委員：当自治会でも、こうした細かいことが積もり積もって近所の中でくすぶっているとところがある。

小林委員：午後収集・土曜日収集という問題が残るが、その代わり費用は抑えられることを説明する。

森住部会長：それでよい。ただ、該当する地域についてはきめ細かい説明が必要である。土曜日収集の地区は固定で決まってしまうのか。

事務局：ルートが決まるため、そうなる。ルート変更には多大な労力がかかるため、頻繁には見直しはしない。

森住部会長：その説明も必要である。それがないと、1年ごとに変わるのではないかという期待を持たれるかも知れない。

事務局：想定される質問に対する Q&A を作成する等、説明会への十分な準備をしたい。

藤堂委員：自治会で役員が変わると同じような質問が繰り返される。以前、ごみに関する問い合わせ窓口を作る案があったが、こういう場合はこういうやり方があるといった提案を受けられるようになれば嬉しい。

森住部会長：より良いやり方があれば変えられるように、作成したほうがよいと思う。役員が変わった際も、それを見ればわかる。

藤堂委員：地域で話し合っ解決できる場合はいいが、役員をやらされて困っているという人に、こういう解決方法があると提示できるものがあればいいと思う。

小林委員：各地域で色々な工夫をしていると思われる。それらを紹介してほしい。

事務局：広報の中でも紹介していきたい。現在も月1回、ごみについての Q&A を掲載している。

小林委員：一部を除いて現在の収集曜日が継続されるのか、全体的に変わることになるのか。

事務局：現在の収集体制が基本となる。

小林委員：3分割案は現状に近いものなのか。

事務局：収集の効率化のため区域変更をするので曜日はかなり変わる。半分の世帯ぐらいで変わることになるだろう。

小林委員：その理由も説明したほうがよい。これまで効率的でない部分があり、見直した結果という説明になるかと思われる。廃プラスチックは土曜日にも収集するのか。

事務局：そうである。

谷川委員：廃プラスチックの収集曜日は決まったのか。

事務局：まだである。極力午前中に終わるように組んでほしいと業者に投げかけているところである。

谷川委員：私の地域では可燃ごみ収集が水・土、不燃・ペットボトルが火曜日である。廃プラスチックはこれら以外の曜日になるのか。不燃ごみ以外の日ということだと水・土にこともあるのか。

事務局：業者に投げかけているところであり、詰め切れていない。

藤堂委員：当地区では、可燃ごみは火・金、資源ごみが水、廃プラスチックが木となっている。

森住部会長：可燃ごみ収集の後、その地区の廃プラスチック収集に回る可能性はあるのか。

事務局：それも含めて検討してもらっている。

森住部会長：必ずしも他の曜日になるとは限らない。

大内委員：集積場所のスペースの問題があり、他の曜日にしてほしい。

小林委員：私は同じ曜日に出すほうが楽と感じる。

藤堂委員：同じ曜日に可燃ごみと廃プラスチックを出すことになっても、定着すれば問題

ないと感じる。ただ、集積場所が違う場合、違うほうに出してしまう可能性は残る。

大内委員：当地区では可燃の集積場所と不燃の集積場所が 180 度違う逆方向にある。廃プラスチック収集を可燃ごみと同じ日でなく、不燃ごみと同じ日にしてもらえれば一度の手間で済む。ただ、集積場所が十分な広さかどうかの問題はある。

藤堂委員：集積場所の中で、不燃と廃プラスチックをきちんと分けして置けるならいいが、たいていの人はごちゃ混ぜにして置くだろう。収集時に混乱するのではないか。

小林委員：収集の手間を考えると、不燃ごみとはできるだけ別の日にする。やむを得ない場合は同じ日になる、ということになるのか。

藤堂委員：むしろ可燃ごみと同じ日にしたほうがいいのではないか。集積場所が離れていても、歩く距離は縮まらないが、ごみを出すという手間は若干軽減される気がする。

事務局：可燃ごみ・不燃ごみが同じ日の地区もある。可燃ごみと不燃ごみの区別がつかない有様となっている。この場合は収集日を分けたほうがよい。

小林委員：当部会としての考えを出す必要はないのか。

森住部会長：ある。ごみを出す側に便利なやり方が、収集する側には不便なことがある。ごみの種類が混じってしまうと選別に大きな手間がいる。それを市民に訴えればよい。

藤堂委員：業者が分けにくいことに加え、複数の種類のごみが置かれた状況は、「何でも出してよい」という印象を与え、不法投棄を招くおそれがある。

小林委員：できるだけ全ての収集日を分けたほうがよいという理解でよいか。

森住部会長：できない場合もあるが、できるだけそうしたほうがよいだろう。ごみの出し方についていただいたご意見は記録に残し、報告書に掲載できるようにしてほしい。細かいことは、10月までに Q&A を作成することとしたい。

粗大ごみ電話申込制について。3人のオペレータが受付をするということであるが、どの会社がシステムを作ったのか。

事務局：富士通エフ・アイ・ピーである。

森住部会長：競争入札を行ったのか。

事務局：プロポーザルで3社。提案内容と価格を検討し、決定した。

森住部会長：システムは市役所に入るのか。

事務局：サーバーはリレーセンターに置く。サーバーにデータを集積し、電話もセンターで受ける。データは業者と市役所で見られる。サーバーは大きくない。普通のデスクトップサイズである。

森住部会長：使用する部屋は1つか。

事務局：リレーセンター事務室の一角を使う。電話にて、名前・住所・電話番号・収集品目を聞き、入力する。そのデータを収集業者のほうでプリントアウトし、収集を行う。

森住部会長：システムの価格はいくらか。

事務局：システムと機器あわせて約 800 万円である。リースでなく買い取りのため、1回

切りの支出となる。オペレータは6人だが、毎日出勤する訳ではない。曜日によって4人、3人と出勤人数が違う。

小林委員：市の職員になるのか。

事務局：そうである。定年後の職員を再任用した。8月から操作や対応方法の教育を実施予定である。業者に端末を置くとすればセキュリティ面の問題がある。プリントアウトした帳票類も収集後は市に提出する仕組みとする。そうしないと市のセキュリティ関係の審議会に認めてもらえない。

(2)広報・啓発活動について

事務局：何がプラスチック製容器包装に当るのか、わかるように説明することが重要と考えている。広報誌、市のホームページでの周知は当然のこととして、地元での説明会も必要である。生駒市内には124の自治会がある。限られた時間で自治会ごとに説明に回るのは難しい。そこで、12の小学校区でまず説明会を開催し、その後、戸別に要望のあった自治会に対して随時、説明会を開催するという案を考えている。

藤堂委員：小学校区単位の説明会はいつごろの開催を予定しているのか。

事務局：できるだけ早い時期にしたいと考えているが、市長の判断・議会の承認も必要になるため、確定していない。9月の議会の全員協議会で全市収集を提言するスケジュールで進めたい。

森住部会長：議会の承認が必要な事項なのか。

事務局：承認は必要ない。予算が成立した段階で承認されたことになる。それは来年3月になる。それを待っていては何もできない。否決されることはないと思うが、9月の議会で感触をつかんでおきたい。

小林委員：業者にも動き始めてもらわないといけないのではないか。

事務局：今のところ市の正式な要請という形は取れない。

森住部会長：議会の承認なしで進めれば、業者と癒着していると言われる可能性がある。非常に難しい問題である。

森住部会長：3ルート案を選び、増車をしないことに落としどころを持っていけるよう、こちらの論理構成をしっかり持たなくてはならない。本日も意見のあったごみの出し方にまつわる問題について、しっかりした返答を持っておかないと、それだけで終わってしまう。10月以降に説明会を開催していく目処で考えてよいか。

事務局：パブリックコメントを求める手続きを考えている。

森住部会長：全員協議会の後になるのか。

事務局：そうなる。パブリックコメントを募集後、説明会に入る順序となる。説明会にはそれほど参加が見込めないため、広報誌で特集的に取り上げ、周知を図ろうと考えている。説明会は実施時期に近いほうがいいのか、もっと手前のほうがいいのか、ご意見をいただきたい。

藤堂委員：自治会長には早い時期にある程度の説明をしていただき、細かな内容についての説明会は1～3月でよいと思われる。ただ、その自治会では何曜日の収集になるのかを、早い時期と直前の時期の2回に渡り、自治会の回覧に載せたほうがありがたい。

森住部会長：意義やお金がどのくらいかかるのかについて、最初に話をしたほうがよい。これらについて批判が集中する。ここの説明が上手でないと、反対論が吹き上がる。議会報告後、10月に入ってすぐにしたほうがよい。各自治体が具体的にどうなるというのは直前でもよい。自治会からの要望があれば応じるというスタンスでよいと思われる。

小林委員：こう変わる、ということが直前でしか知らされないよりも、半年前に少しでも情報が入っているほうが理解されるのではないか。半年前に、いつまでに収集曜日が確定するのかを知らせ、変わるのだと思っているところに、直前に曜日が決まって来月からこうなるのだと受け止めるのがよいかも知れない。

大内委員：収集袋が黒色から透明になるということもかなり以前から広報していた。ある程度の時間をかける必要がある。

小林委員：黒色を早く使っておこうと考える余裕があった。

藤堂委員：ごみの収集体制が変わることは複数回、広報する必要がある。毎年2～3月ころに、ごみの収集カレンダーが来る。それには新しい収集曜日が記載されていることになると思われる。それ以前に、回覧板等で周知する必要がある。突然、カレンダーに新しい曜日が記載するとびっくりする。

事務局：その通りである。カレンダー以外で、絵や写真を使って廃プラスチックを解説するパンフレットも必要と思われる。これについてご意見を伺いたい。

森住部会長：案を作っていただき、この部会でそれを基に検討するやり方がよい。

事務局：次回の7月22日でこの部会は終了する。

森住部会長：延長はできないのか。説明会用の資料はこの部会で検討して練り上げる必要性が高いと考える。市だけで作ると行政側だけの視点になってしまう。最初に開催する説明会が好評かどうかで流れが決まる。極めて重要な案件である。説明会は誰が行うのか。

事務局：市の職員で行う。

森住部会長：事前に説明する人の研修会をするべきである。市民目線で話すのは非常に難しい。えらそうに話している等、陰で言われて流れが決まってしまう。

小林委員：以前にいただいた他市の資料もわかりにくい。汚れは洗うと書いてあるが、それは水のほうがもったいなのではないか等、必ず言われるのではないか。

藤堂委員：小学校区の説明会では写真だけでなく現物も使って説明したほうがよい。

事務局：現物を使っての説明は考えている。

大内委員：小学校や中学校で子供向けに説明することがあってもよいのではないか。家族の協力も必要となるため。環境学習をするのは5年生か。

事務局：4年生である。子供向けの教育は長期的な取り組みとなるため、別個に考えたい。

森住部会長：ただ今の提議は8月以降に検討していきたい。

事務局：本日の案件ではないが、ごみの直送・リレーセンターの再活用推進を報告書に方向性として記載したい。

森住部会長：リレーセンターをなくすメリット・デメリットを書く必要がある。なくして直送にすれば運搬距離が長くなり、収集時間がやや増える。それはコスト増になるのか。

アルパック：収集業者が費用は現状でよいということになればコスト増とならない。計算上、距離は少し長くなる。

森住部会長：いずれにせよ、客観的に検討した旨、記載したほうがよい。

小林委員：持ち込みごみはリレーセンターへの搬入は変わっていない。

事務局：そうである。リレーセンターが完全になくなる訳ではない。家庭ごみは来年度から直送となるが、事業系ごみは来年度1年間はリレーセンターで中継する。リレーセンターの職員の雇用・剪定枝の直送は難しい等の問題もあり、継続せざるを得ない事情がある。

小林委員：リサイクル・リユースセンターとして活用していくのではないのか。

事務局：それは今後の検討課題である。

森住部会長：リレーセンターに運搬するには有料道路を使わないといけない。

事務局：そういう問題もある。

森住部会長：いくらかかるのか。

事務局：2t車程度で片道350円。

森住部会長：それは業者が負担するのか。

事務局：収集委託料に上乗せすることになる。

森住部会長：そういうことは公開したほうがよい。余計な不信感を持たれることになる。もともとは、あの場所に立地したことが問題と言える。

事務局：そういう面もある。

森住部会長：職員は何人いるのか。

事務局：現業職員が約10人、事務職が3人いる。

小林委員：収集車が搬入した後、積み替えて運搬するのは市の職員なのか。

事務局：その通り。ピット周りの作業・10t車での運搬・大型ごみの裁断を担っている。また、清掃センターは市民が直接持ち込むには交通事情から見て危険を感じる。其の点、リレーセンターは安全であり、市民持込の場として残す意義がある。現在、市民持込は午後のみであるが、家庭ごみ収集が直送になれば余裕ができるため、朝から持込できるようになる。

森住部会長：今後の利活用策として、リサイクル可能なものを収集するというだけでも可能といえる。

事務局：リレーセンターを、リユース・リサイクルの拠点として残す方向性にするなら、

市民持込を受け入れる機能を残す意味は大きい。

藤堂委員：新しい体制を検討していただき、その中で職員がどれぐらい必要かも考えていただくということになるのか。

事務局：そういう方向になると思われる。現在の職員がリユース・リサイクルの仕事に携わることができるかどうかの検討も要る。

藤堂委員：リサイクルセンターの運営形態にも左右されると思われる。

事務局：その通り。

森住部会長：他にご意見は。

事務局：廃プラスチックモデル収集について。全市収集が週1回の方向性になったため、2つのモデル地区でも週1回の収集をお願いしたい。

藤堂委員：いつから変更するのか。

事務局：11月頃になると見られる。追って自治会長に説明申し上げたい。

藤堂委員：全市が週1回になったためモデル地区でもそうなったと説明しやすい。

4 閉会

次回は7月22日に開催する。

平成22年 月 日

議事録署名人

議事録署名人